

「人、もの、自然とのふれあいを通して 豊かな感性をはぐくむ」

堰本幼稚園（福島県伊達市）

[5歳児]

【昨年度の反省と今年度の主な計画・実践】

昨年度は、大きく「ふれあう場の構成」「感動を共有する援助」の2点から手立てを講じて取り組んできましたが、下記のような反省が見られました。

意図的に人、もの、自然とかわらせることに保育者自身が慣れておらず抵抗があったが、取り組んでみると、子どもたちの感性の豊かさに気付かされた。今後は、保育者自身が研修を深め、積極的に環境を構成していくことの大切さがわかった。

1年保育の問題点は、幼稚園・保育者だけでは解決は困難で、保護者の力、そして何よりも、子ども同士のかかわりが重要であることがわかった。

保護者の幼稚園教育に対する意識の高揚には、講演会などの研修の機会も大切であるが、保護者にも体験の場、楽しくかかわれる場を用意することも有効であった。

子どもの感性や知性は、幼児期には教えたり指示したりして身に付くものではなく、体験の場を工夫し、保育者・保護者も共感することが大切である。

本年度は上記の反省をふまえ、更に「場の構成」や「援助」について改善を図っていきたいと考えました。

【本年度の実践構想】

昨年度の実践を基に指導計画の見直しを図りました。保育者にとっても初めての経験で戸惑うことの多かった昨年度でしたが、その経験は生きていて、計画の見直しが進むとともに、今年度の見通しがもてたことは大変よかったと思います。

そこで、計画に基づいて、ジャガイモの畑、メダカ池、田んぼがリニューアルされ、子どもたちにとってより身近な環境として、日常の保育や遊びの中で生かされるようになりました。

【実践例1】環境の見直しを行い、畑、田んぼ、池を作り直し活用を図る

「チクチク虫を育てよう」 ～じゃがいも畑で発見～

1年保育5歳児（6～7月）

幼児と保護者の気になる姿

生き物、虫に関心をもっている幼児が多い。アニメやゲームに登場する物的なイメージが強く、命あるものとしての感覚は薄い。

「虫は嫌い」と子どもたちの好奇心に付き合おうとする気持ちが見られない保護者がいる。

ねらい

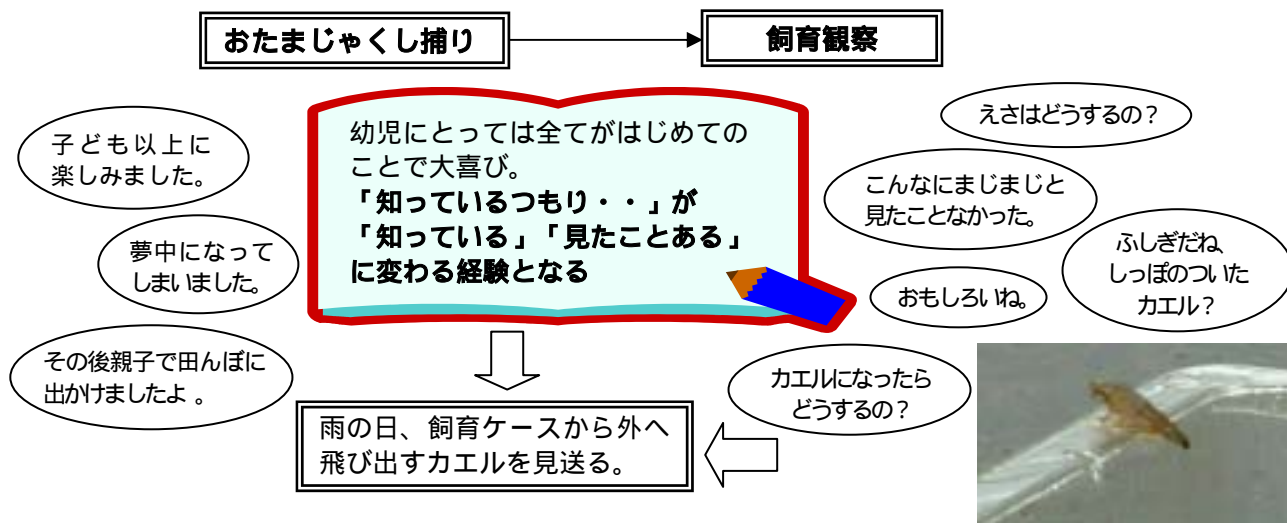
自然に直接触れる体験を通して、変化していく様子の面白さを味わう。

幼児の感動体験を保護者も一緒に共感する。

あそびの経過と環境

昨年度の反省からじゃがいも畑、めだか池、田んぼの場所移動と拡張を行った。


保育参加等で、苗植えやおたまじゃくし捕りを保護者にも体験してもらう。



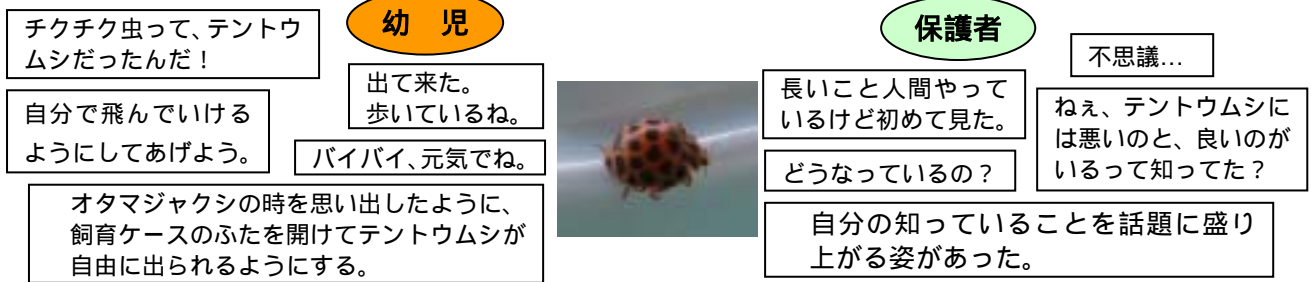
降園時、池、田んぼをのぞく親子が増える。

小学生も池に関心を持って立ち寄り遊んでいく。

じゃがいも畑に毎日水撒きすることで、じゃがいもの生長に目を向ける。

幼児の姿	保育者の援助と 環境の構成
<p>「葉っぱが元気ない」……「かわいそう」</p> <p>「穴みたいのあいてる」……「虫食いついていうんだって、じいちゃんが言った」</p> <p>「ねえ～、へんな虫いるよ」……「どれ？」</p> <p>「毛が生えてる」…「いやな虫」</p> <p>「チクチク虫にする？」</p> <p>「飼ってみようよ」</p> <p>「調べよう」</p> 	<p>テントウムシの仕業と分かっていても、どうしてもどうしてだろうの気持ちを受け止め、一緒に原因を探す。</p> <p>「じいちゃんはいろんなこと知っているからね」と尊敬の念を表す。</p> <p>本来なら害虫として、すぐに退治したいところだが子どもたちの探ろうという気持ちに添っていく。</p> <p>『不思議と思うものは飼ってみる』ということや『図鑑で調べてみる』ことが自分たちの動きとなってきているので仲間のように一緒に行動する。</p>

(12日後、脱皮しニジュウヤホシテントウになる)



【考察】 どのような環境設定をしたことで、幼児と共に保護者も一緒に関心をもって畑、めだか池、田んぼを観る姿も多く、家庭との連携を図るのに効果を上げた。また小学生も気軽に立ち寄り、遊んで行くなど、幼小連携の一端となっている。

保護者同士が幼児の興味の対象に関する話題で楽しそうにしている姿は、幼児にとって受け入れられている雰囲気を感じているようであった。

『不思議』の感じ方は人それぞれである。試してみてもどんなことに気付くかも、人それぞれであってよいことに力を入れていきたい。



<リニューアルしたジャガイモ畑>

- ・日当たりの悪い園舎西側から南側へ。
- ・保育者の意図とは違って、子どもの興味・関心は「チクチク虫」
- ・ジャガイモも去年よりたくさん取れました。



<メダカ池もリニューアル>

- ・大型たらいから、より自然に近い形に。
- ・小学生も、メダカを追いかけて。



<田んぼのリニューアル>

- ・田んぼも大型たらいから、小さくても自然に近い形に。
- ・今年の田植えは、うまくいきました。



みどころ

前年度の反省や課題を今年度の計画へと活かして環境を見直したことが、子どもたちや保護者の方たちの体験を豊かなものにし、発見の喜びや新たな気付きなど、科学する心に結び付いています。更に、地域の小学生にも関心が広がり、幼小の連携を生み出したり、親子のみならず保護者同士の会話が増えたりするなど、直接体験によって得られる感動がいかに大切なものであるかが再確認できます。